

小高復興デザインセンター

小高志

2017年
12月

No.11

育む

大悲山の杉



まちなか菜園

空き地を緑にする取り組み

センターでは、まちなかの空き地を菜園として利活用する取り組みを始めています。

7月におこなわれた東町公営住宅「ひだまり菜園」での収穫祭の様子と、この秋からスタートしたモデル菜園づくりプロジェクトの様子をご紹介します。

「ひだまり菜園」収穫祭



7月23日、東町公営住宅の「ひだまり菜園」で、春に植えたジャガイモ・ニンジンの収穫祭がおこなわれました。男性のみなさんが中心となって収穫した野菜を、女性のみなさんが美味しいカレーへと変身させていただきました。畑でとれたキュウリからし漬けやシソを薬味に使った素麺なども登場し、大変にぎやかな会となりました。「ひだまり菜園」では、秋植えの白菜なども育て始めています。秋・冬野菜を使った収穫祭が待ち遠しいですね。



「そよ風ガーデン」始動!

引き続きメンバーを募集しています!!



前号でもメンバーを募集したモデル菜園づくりが遂に始動しました。砂利の空き地に脚付きの大型プランター（レイズドベッド）を配置し、「そよ風ガーデン」と名付けました。空地の草刈り、レイズドベッドの組み立てにはLLOの1年生も参加しました。

10月27日には、さくらサロンのみなさんとレイズドベッドに土を入れる作業を行い、素敵な菜園づくりに取り組んでいます。



2代目 LLO 始動!

Live Lines ODAKA (LLO) は、小高を活性化させる高校生グループです。
新メンバーの意気込みを特集しました。

2016年2月に発足したLLOの第1期生が任期を終え、9月12日に復興デザインセンターにて引き継ぎ式が行われました。原町高校から8名、小高産業技術高校から5名の1年生が、3年生の先輩方からたすきを受け取り、10月21～22日の「秋祭り」にて事業を展開しました。

今年度は、「高校生見守り隊」や「光るベンチ製作」等

を通じて小高で活動しながら、「視察研修」では他県の高校生団体と交流し、意見交換を行う予定です。2017年度末には、南相馬市長へのプレゼンテーションにて、高校生として考えたことを発信します。小高を元気にしたい!という想いで自主的に集まった、13名の活動へ、皆さまの応援・サポートをどうぞよろしくお願い致します!

2代目 LLO の、 それぞれの想いを 聞きました!

自分の意見を積極的に伝えて、LLOの仲間たちと楽しく、仲良くやっていきたいです。これから2代目として頑張っていきます。

持てる力を全て出し切って、小高に貢献できるように全身全霊で頑張りたいと思います。結果を残せるような活動をしていきたいと思っています。

自分の全力を尽くして頑張っていきます! 「有言実行」と「誠心誠意」を忘れずに、みんなで協力して笑いの絶えない小高を目指します!

自分の役割をしっかりと理解した上で率先して活動に参加していきます! どんな活動も笑顔で行い、沢山のひとと交流していきたいです!

これから新しくなった2代目LLOで、自分の特技を活かして、ボランティア活動や他の様々な活動に貢献できるように頑張りたいと思います!

LLOとして活動していくなかで今まで知らなかった小高を学びつつ、LLOで小高の活気を取り戻し、誰もが不自由なく当たり前の日常を小高で送れるようにしたいです。

地域の方々との交流で小高のことや昔のことなどを学び、たくさんの人を笑顔に出来るように積極的にLLOの活動に参加したいと思います。1代目LLOに負けないうらい頑張ります!

時には喧嘩することがあっても一人一人の意見を大事にしたいです。どんなことにも挑戦し、2代目LLOのみんなで小高を盛り上げていきたいと思っています!

LLOとして小高を活性化させるだけでなく、高齢者から教わった発見などを周囲の方にも発信していけるように頑張りたいです!

LLOで自分にどんなことが出来るかまだわかりませんが、自分にできることを一つずつ確実にこなして小高の復興に少しでも役立てれば良いなと思います。

LLOでは先輩の代からの、光るベンチ作りや地域見守り活動などの様々の活動で貢献出来るようにしたいです。小高を少しでも明るく、元気に出来るようにしたいです。



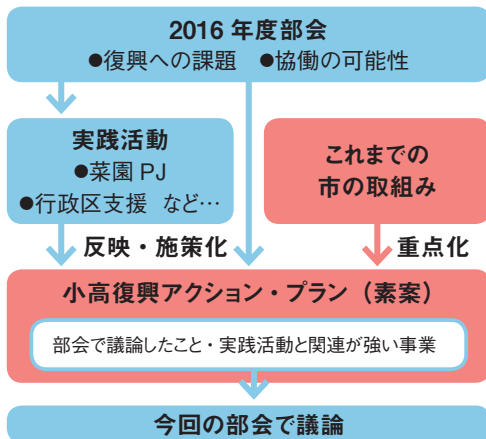
2代目メンバー



ベンチの塗りなおしも行いました

2017年度 つながり部会・まちなか部会開催報告

部会開催の経緯



2017年9月7日、8日に、つながり部会、まちなか部会をそれぞれ開催しました。センターは、2016年度から四つの部会を開催し、小高区が抱える課題や復興に向けた協働の取組みについて話し合い、一部を実践的活動として行ってきました。一方、市は現在、復興総合計画に沿って、今後の課題解決に向けた施策を具体化し、市民とともにまちづくりを進めるため、「小高復興アクション・プラン」を検討しています。

今回両部会とも、アクション・プランの目標や新規実施を目指す各施策に対して意見交換を行う第一部、各部会のテーマに関連する施策について重点的に話し合う第二部という構成で実施しました。

今後、頂いたご意見などをもとに、来年度以降の施策実施に向けて検討を深めていきます。

つながり部会

つながり部会には、市社会福祉協議会や、サロンに取り組み行政長、地域の生活やつながりを支える活動をされている方などに参加いただき、意見交換を行いました。

第二部では、行政区主体のまちづくりを支援する施策、地域の共有スペースなどの草創を支援する施設案について提案し、話し合いました。

つながり部会での意見

- 行政区主体のまちづくり支援について
 - ▼ 帰還した住民がやりたいことにだけ対応できるのが鍵。
- 地域の草創り支援について
 - ▼ 支援対象や、行政区間の連携にも対応できる仕組みが必要。
 - ▼ 震災後に新しくできたつながりを鑑みた支援のあり方が必要。
- その他全体を通して
 - ▼ 小高区の魅力を発信する取り組みを積極的に行うべき。
 - ▼ 高齢者などの移動手段の確保が課題

行政区のまちづくり支援

つどいの場づくりなど、「コミュニティ再生に向けて、取組みたい」と考える行政区に対し、状況に合わせて、支援します。



例えば、浦尻行政区での取組みのように、話し合いの場作りの支援を行います

まちなか部会

まちなか部会にはまちなかの行政区長や、主にまちなかでまちづくりの実践に関わる方に参加いただき意見交換を行いました。

第二部では、まちなかにおけるコミュニティ再生のために、空き地をまちなかの菜園として活用する施策や、空き地を貸しイベントスペースなどとして整備する施策案について話し合いました。

まちなか部会での意見

- まちなか菜園づくりについて
 - ▼ 事業を楽しくする仕組みづくりや取組みを地域に広げる工夫が必要。
- オープンガーデンの考え方を取り入れるかどうか。
 - ▼ 貸しイベントスペースについて
 - ▼ スペースが継続的に活用されるための体制づくりの必要。
- その他全体を通して
 - ▼ 移住定住促進と一体的に、小高区内での生活の基盤となる仕事創出を目指すことが重要。

まちなか菜園づくりのイメージ

まちなかの空き地や耕作放棄地、使われていない庭を利用した菜園づくり等の地域活動に対して、金銭・人材・情報を援助します。



東町ひだまり菜園のような取組みをまちなかの空き地を利用して行うイメージです

集落部での取り組み — 大富行政区の活動支援

小高復興デザインセンターでは行政区が主催するイベントや地域の活動の支援を行っています。
2017年度上半期の大富行政区における取り組みを紹介します。



ひまわり迷路



大富行政区では、集落センターそばの60アールの耕作放棄地を有効利用すべく、ひまわりの種を2017年5月にまきました。小高復興デザインセンターは5月末に大富行政区の渡部区長から、ひまわり畑の一部を刈り取って迷路を作りたいとの相談を受け、迷路の設計及び施工を協力しました。ひまわりの刈り取りは、6月末から7月初旬にかけて、大富行政区の住民の皆さん、福島大学の学生の協力のもと行いました。

ひまわりは生長が早く、種をまいてから2か月ほどで人の背丈ほどまで生長し、7月中旬過ぎには花が咲きました。ひまわり迷路は7月下旬～8月中旬の間オープンしました。また、8月5日には来場してくれた方に簡単な景品をプレゼントするイベントを行いました。センターでも、イベントの開催に協力しました。イベント当日は市内外問わず多くの方がひまわり迷路に挑戦していました。



イベントでにぎわうテントの様子です。



はちみつ作り

渡部行政区長のご自宅の庭では、養蜂も行われています。9月の大富行政区のサロン（かけの森サロン）では、行政区の住民の皆さんがはちみつぼりの体験を行い、試食を行いました。センターでははちみつの瓶に張り付けるラベルをデザインさせていただきました。



日本大学の学生、浦尻の方々と交流を深めました！

9月16～17日、日本大学主催で、浦尻の民家を活用してサマーキャンプを実施し、住民の方々やLLO(高校生グループ)とともに浦尻の夏を楽しみました。



小高の今昔

今も昔も、小高ではみんなが多様な生活を送っています。
昭和時代の小高の生活を写した写真を集めました。

お祭り



駅前通りでお祭り(昭和30年代)



秋祭りでの高校生の活動

地域の集まり



昼ご飯のあとの談笑(昭和30年代)



サロン

古写真は南相馬市「おだかのまちのすがた」より引用

小高復興デザインセンターには、こんな方々が来館されています！

センター開所以降の来館者の声を、いくつか抜粋してご紹介します。

- ▶ 大学生の間、南相馬市に学習支援に関わっていくうちに、まちが好きになった。社会経験を積んでから、移住を考えている。(女性・埼玉県/2016.10)
- ▶ 娘夫婦がいるところへ移住を選択したが、今後も小高に通い続けたい。(男性・埼玉県/2016.10)
- ▶ 菜園づくりで土地を貸してもいい。地区ごとに農機具を共有するような仕組みがあるといいのではないか。(男性・小高区大井/2016.11)
- ▶ 小高区に移住して、所蔵してきた本を活かして本屋+コミュニティスペースをつくりたいので、空き家を紹介してほしい。(女性・神奈川県/2017.4)

日々様々な方々に来館いただき、本当にありがとうございます。センターでは、ここに集まった多様なご意見をふまえて、住み続けたいまちにしていく活動に、一緒に取り組んでいただける方をお待ちしています。

小高復興デザインセンター

2016年夏、設立しました。住民・行政をはじめとして、小高とつながりたいみんなが協働し、実践していく場です。

〒979-2124 南相馬市小高区本町2-89 旧社協会館
TEL: 0244-44-5100

Web: <http://td.t.u-tokyo.ac.jp/odaka/>
<https://www.facebook.com/OdakaRC/>